

国立病院機構 福山医療センター レジメン登録・管理表

レジメン名称	胃癌 Trastuzumab+XP療法 (Shydration)	臨床区分	抗癌剤適応分類	登録日	2017年7月5日 (第二版)
疾患名	胃癌	<input checked="" type="checkbox"/> 日常診療 <input type="checkbox"/> 単施設自主研究 <input type="checkbox"/> 他施設自主研究 <input type="checkbox"/> 市販後臨床研究 <input type="checkbox"/> 治験	<input checked="" type="checkbox"/> 進行・再発化学療法 <input type="checkbox"/> 術後化学療法 <input type="checkbox"/> 術前化学療法 <input type="checkbox"/> 局所療法 <input type="checkbox"/> その他	1クール期間	21日
診療科名	消化器内科				
登録医師名	藤田 勲生				
				実施回数	/回

Rp	薬品名称	標準投与量	単位	投与方法	ルート	投与時間	投与日										注意コメント
							day1	day2	day3	-	-	day14	day15	-	-	-	
1	カベシタピン錠300mg		錠	経口			●	→	→	→	→	→	休				備考欄参照
2	生理食塩液	100	mL	点滴静注	メイン		●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	血管確保用 ※開始から終了までECGモニターを装着すること
3	ソルデム3A輸液 静注用マグネソール	500 0.5	mL 錠	点滴静注	メイン	60min	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	アプレピタントカプセル125mg	1	Cap	経口			●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	抗がん剤投与1時間～1時間30分前に内服 (内服不可の場合は、ホスアプレピタン)
5	アプレピタントカプセル80mg	1	Cap	経口			-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	2日目で降、午前中内服
6	ソルアセトD輸液 デキサード注射液 6.6mg	500 1.5	mL 瓶	点滴静注	メイン	60min	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
7	ソルデム3A輸液 デキサード注射液 6.6mg	500 1	mL 瓶	点滴静注	メイン	60min	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	
8	生理食塩液 パロプセドロン静注0.75mg	20 1	mL 瓶	静注	側管	緩徐に	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
9	20%マンニトールS注射液	300	mL	点滴静注	メイン	30min	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
10	生理食塩液 トラスツスマブBS点滴静注用	250 8 (2回目で降6)	mL mg/kg mg/kg	点滴静注	メイン	90min	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	初回投与時のみ8mg/kg 2回目で降 6mg/kg 初回：90min 2回目で降：30minも可
11	生理食塩液 ジスプラチン注	滴管 80	mL mg/m ²	点滴静注	メイン	120min	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1) カベシタピンが処方されているか確認すること 2) 全量500mLに調製
12	ソルデム3A輸液	500	mL	点滴静注	メイン	60min	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	
13	ソルアセトD輸液	500	mL	点滴静注	メイン	60min	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	

備考欄
 カベシタピン 2×(14)MA 内服処方
 1.36m²未満 1200mg/回、1.36m²以上1.66m²未満 1500mg/回、
 1.66m²以上1.96m²未満 1800mg/回 1.96m²以上 2100mg/回

文献

減量・中止基準

【腎機能障害の投与量変更例】
 Capecitabine : Crが30mL/min以下は投与中止
 CDDP :
 CCr(mL/min) ≥ 60 → 80mg/m², Cr : 51~59 → 60mg/m², Cr : 41~50 → 40mg/m², Cr ≤ 40 → 投与中止

【減量・中止基準】
 ■血液毒性 : Grade3以上なら休業し、Grade1以下になれば下記基準で再開
 ・好中球減少Grade4、発熱性好中球減少症Grade3 → Capecitabine : 1段階減量、CDDP : 60mg/m²
 ・血小板減少 Grade4 → Capecitabine : 2段階減量、CDDP : 40mg/m²
 ・発熱性好中球減少症 Grade4 → Capecitabine : 中止or2段階減量、CDDP : 中止or40mg/m²

なお好中球数1000~1500/mm³、血小板数100000/mm³以上であれば休業せずにCapecitabine (減量段階1)、CDDP (60mg/m²) で投与可能だが、規定の投与量で継続する場合は好中球数1500/mm³以上に回復するまで治療を延期する。

【Capecitabineの減量時の投与量 (1回量1000mg/m²で開始の場合)】
 BSA < 1.41m² → 1段階減量 : 900mg/回、2段階減量 : 600mg/回
 1.41m² ≤ BSA < 1.51m² → 1段階減量 : 1200mg/回、2段階減量 : 600mg/回
 1.51m² ≤ BSA < 1.81m² → 1段階減量 : 1200mg/回、2段階減量 : 900mg/回
 1.81m² ≤ BSA < 2.11m² → 1段階減量 : 1500mg/回、2段階減量 : 900mg/回
 2.11m² ≤ BSA → 1段階減量 : 1500mg/回、2段階減量 : 1200mg/回